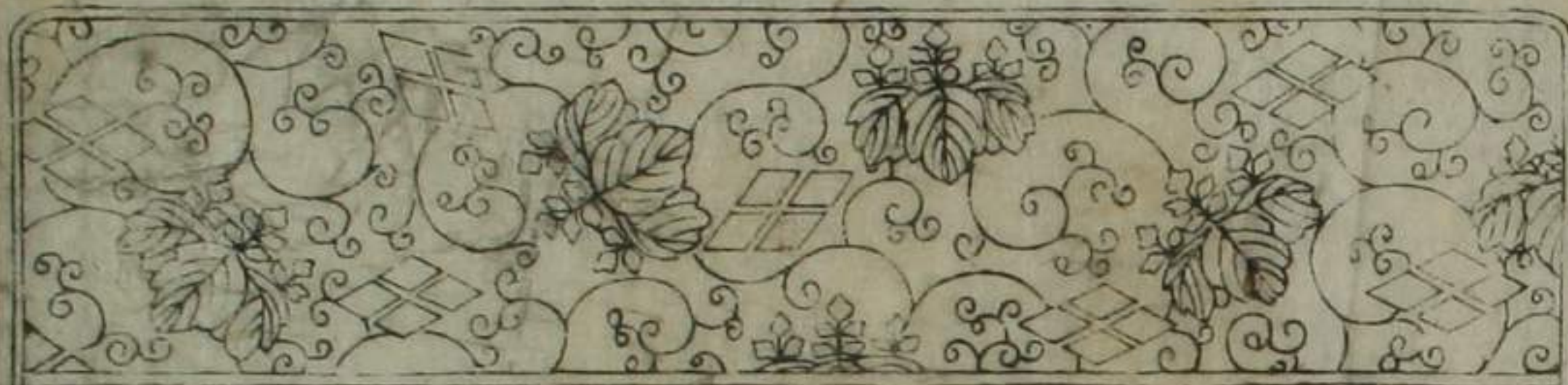


江  
清

13  
2257  
6



繪本烈戦功記卷之六

目録

伊奈勝頼初陣高名之事

武田勝頼討藤井豊後守圖

箕輪城合戦之事

箕輪搦手合戦之事并曲淵廣瀬働之事

長野信濃守血戦之事并大熊武勇之事

長孫信濃守与小幡尾張守撰戦之圖

箕輪落城之事并上泉伊勢守武勇之事

川内初記卷之六



繪本列戰功記卷之六

伊奈勝頼初陣高名之事

安中此城主左近進定色兼而密約の事おれを早く小隊  
 明して武田の勢又加よりあまき山領。松井田安中乃こ  
 城を立ちあはる落城せける。今ハ義輪の城而残りなきは  
 謙信が後結あはるちり攻取べしとて義輪又近き椿山迄  
 押しこく此又信玄の隙をぞ構らる。後ハ兵士二萬餘騎  
 甲の甲より耀う。糧乃袖に作らる。魏と常として備  
 城將長孫信法守を。信玄直又寄らしと聞て又  
 近崩して旗本又切入勝負と一撃を交せん。矢石と精  
 兵と勝り。擲く下知れ侍へ強場以て定め。驍馬と使へる

列戰功記卷之六



武田家古今集紛失之事

信玄召小幡信定事

小幡信定到甲館圖

電光

敵

引込人々武者扱又事よい也名平して平と勝負せよと  
 大勇又もこれども敵益々思ひらん又も平向も平  
 て城中にて引込て勝負名るよ平よりちれを左右の陣を  
 ちるじ獨戦相する合せつ須臾の間は追討と止すれやはと  
 勢多ゆつり尚下麻の南の前立ちよ武武者一騎するの陣を  
 立率して勝負を破と睨む你小冠者軍令有りて平  
 追しと追つり以後の足懲眼はおもむくもはなれとたりの  
 槍引とらいて縮書のかく突出はと勝れるる陣  
 ておおて丁と剣射のふんとさるる平を得ると再い  
 獲先と引くと一降は槍の柄は切新の遠き  
 太刀より取らるるで勝負疾風のてく平身するより平

敵

遅く待つけり。武田方山の翌日ど一村は攻めんと軍  
 大うく有る如く申此刻はうるよ又義輪の大名を  
 小橋三河。同家書も今が改より。五十騎を  
 出さるる。所も受ある兵士と見え。武田の改は  
 手。おろく見え残りて引込て生勢よ三丁より引  
 さもふやうある騎る武者又騎。武田勢をおおる  
 横川よ赤入と雨と引て終へ天晴勇士とぞ見え  
 信玄の四男伊奈四郎勝頼十八七の初陣と寄りの  
 陣中よ立けるがけ体と勝負よと心驚き敵の旗  
 うふ予もやめは付る獲せんがとて。秋山伴治守と  
 只二騎馬とあけて赤中一敵加へて追討を

落以強りの二務 是を以て大に怒り 拔いて切せらる可  
秋山伴勢 立ててゆく 中 忽ち勝切らる 後 先 引行  
五十餘騎 味方討てて 引けよ 傳を以て 引行 頼  
秋山と遊兵をのみ 八方より切てかふる 常下原 兵法入る 橋本  
いふ事の 隙外に生勝れ ぎやんて 危う 思ひ 速い 後  
切作て 待居り ちる 引く 引く 引く 引く 引く 引く  
斬まり 勝れと押し いたる 右に 當て 戦ふ 所は 隊中 ありも  
逃る 引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出  
引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出  
ともせ 引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出  
引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出  
引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出 引出

捷

千尋よ 引く 引く 引く 引く 引く 引く 引く 引く  
又 義輪の 猛兵 散る 引山 崩れ 右 往 左 往 引 引  
入道 引 引 引 引 引 引 引 引  
味方の 引 引 引 引 引 引 引 引

勝頼再武雷之事

武田の大軍 夜に 椿山に 陣 引 引 引 引 引 引 引 引  
き 東雲 引 引 引 引 引 引 引 引  
山の 板 引 引 引 引 引 引 引 引  
間より 引 引 引 引 引 引 引 引  
引 引 引 引 引 引 引 引  
引 引 引 引 引 引 引 引  
引 引 引 引 引 引 引 引

引 引 引 引 引 引 引 引





及第功言卷之六

武田勝頼  
 藤井  
 豊後守  
 討  
 國





足せ中へんやと。さる所へて先は進み。我と盤石の重  
 に比し。命と我考毛の煙さよ。味方の死骸は割こえと  
 一足も引くべし。中にも倭作庵へ例の八南持成  
 あり。故とて。門と麻と難が如く。さる所へも。亦例せど  
 倭兵ハも。事と。十分見え。勝毛よ。遊々荒まかたり  
 て。難ども突どもたどり。暮連よ。突つた寄るも。剛守  
 五。喚叫で。抄戦寸。高下。倭兵の中より。後宮孫九郎と名  
 て。太刀と。指し。小言の傷。亦は。倒れて。あけやる。武田路  
 を。降下り。斬て。落し。早。あは。幸目と。おむの。おま  
 く。天晴。割の。傷。さ。ら。り。倭。作。庵。見。と。ん。て。持。成。と。あ  
 て。あ。ろ。と。後。宮。早。速。よ。身。が。醒。て。稻。妻。の。如。く。は。け。入。て。倭。作。

新盛

一喝を震え。さ。は。は。後宮孫九郎。良。ま。向。微。毒。よ。亦。碎。れ  
 未。よ。射。て。亦。死。寸。さ。ら。山。主。水。麓。知。り。城。作。庵。と。追。え。の。あ  
 究。竟。の。勇。士。も。ま。ま。こ。え。と。亦。て。あ。は。と。倭。作。庵。も。ま。ま。斬  
 法。甘。く。烈。く。して。秘。剣。と。し。力。戦。を。武。田。路。ハ。倭。作。庵  
 索。ん。と。あ。く。も。烈。く。し。持。成。と。あ。れ。ば。路。を。知。り。い。知。は。さ。く  
 餘。如。よ。見。持。て。戦。ふ。亦。倭。作。庵。が。舍。身。成。忠。を。傷。め。く。と。亦。
 高。の。救。成。も。持。て。血。は。降。ら。る。大。太。刀。を。ま。向。よ。さ。る。所。へ  
 城。兵。よ。割。て。入。り。さ。る。所。へ。幸。切。て。落。せ。倭。作。庵。見。れ。ば。さ。る。所。へ。精。心  
 加。り。て。猛。虎。の。群。羊。よ。射。入。り。さ。る。所。へ。八。方。不。慎。感。を  
 雖。も。一。方。と。亦。破。り。血。が。啜。く。息。次。り。忠。を。清。く。見。倭。作。庵  
 乃。母。事。成。ん。と。心。中。不。安。堵。の。思。ひ。と。あ。り。亦。も。進。ん。と。

新盛

神

見代カ已長六

敵

突串をよんどくと、鞍に突下りて、存彦飛ぶるの、  
 おどらせ、持え、ととるる、  
 を、微、と、お、早、の、小、  
 ら、引、退、く、存、彦、入、道、大、怒、り、丸、山、と、一、斬、手、を、  
 一、這、奴、の、大、事、の、  
 かく、を、中、より、の、若、武、者、  
 討、て、初、武、田、方、も、大、熊、原、八、上、聖、堂、  
 過、弥、去、清、木、存、彦、と、  
 成、て、切、ま、る、  
 猛、兵、官、

川内

鏡

織

敵

等

而く小懐、  
 負、し、  
 て、探、  
 鎗、法、の、  
 不、  
 果、去、  
 城、  
 病、  
 と、  
 つ、  
 して、  
 天、  
 働、  
 付、  
 一、  
 切、  
 引、  
 退、  
 如、  
 呼、  
 首、

揚

必死の園野何野のべたももるんざりりりほども長きまの月も  
 かきわたて己よ夕陽も及びられば城中より友野十良左衛門  
 とて無双の勇士並出く寄子乃士卒以うけちと味方とを控く  
 引あぐまむ武田方も戦ひつれ喰ひ免じて内後浅利勢  
 負せりめて屯れ

兼輪搦手合戦之本 是曲瀨廣瀬働之本  
 常下揚子の方より馬場氏少捕飲富三良兵衛 耳利左衛門  
 尉の二將揚子を兼餘勢とて押寄先小菅五郎兵衛尉隊伍  
 黨として攻寄り城中より上泉守勢守とて世々聞ゆる  
 武功の者長野信法守が羽翼とわめられ搦手とて固  
 ぢらぐ武田勢公平場と待うけ一時は勝負を交せんと候

鏡

ちて揚子斯て武田の先鋒 関が等と揚やいふ猪子と猪  
 一番槍と名乗て孫武者一騎突落とこれ軍の始じて  
 両勢一同揚子寄せ合せ入られてど揚子入る。然きやを  
 陣兵の鋒芳じて小菅が備ありちてなるは。馬場民部  
 少捕耳利左衛門村おき援けよと知てあが早川を渡り  
 大式廣瀬々右衛門曲瀬庄左衛門揚子一文字は孫揚子一同は槍  
 と投へく長豊勢と突立とて忽崩れて放せんとて。撤兵赤石  
 とも赤石と撲り中し。小菅さ岳より二百余騎騎る。馬場  
 驅立とて。是がみよ武田勢せぬと追崩る。飲富三良左衛門  
 左衛門尉揚子岳のらよ押出。赤石が傍に殺入とれ。はもの成兵  
 崩とて城として敗走とて須は対ひれと武田勢一同守とて

三科曲剛長沼度敷荒れあれく働きひれを長沼の備率而  
 徐人槍と申す討死に是とて土肥大膳亮五百余騎を  
 討て出赤石と捕て搦戦と寄子の猪子文花の黒草威の首  
 二早甲猪首と著し是先と進み城兵刃討て手利  
 小筒とれく細くひと成し馬止りて又切てはれては  
 腕僅の透間をあらす頂とて赤抜りはも武勇の  
 名と得たる武田の猛兵猪子文花只一勢の鐵丸と砂上の露  
 中をきえりたる小林幸助萬葉と首とんとする所  
 三科右衛門小林と一捲は突つ赤石と竹け突つるを赤石  
 が良堂七十余騎を討て是の赤石と遮り二科兵圍んで八方より透る

もあく切付まじ侍右衛門此ともをりき後よ高て突  
 戦と廣瀬の侍門へ敵死にし猪子文花と引提て又六  
 間立りたる朋友の死骸と所く取相くはと文花が良堂は  
 おれ再進む搦戦とて協民の少捕来幣赤り。敵はる  
 いめれたるぞ進よんや者た。大さよト知るを  
 甲軍迅風の如く起り立猛勢殺気砂烟と撲まはる成て  
 切腹られぬ城兵とて搦れ散らば敗走とる赤石を  
 赤土肥大膳踏止て血戦。敵と引退く勝は赤土武田勢  
 食らく追結ると上泉伊勢守鉄炮の勝れと勝り槽上  
 至一同は切てはる。はも武田勢的と來て赤例これ  
 おりても向べは換ど形。三科曲剛廣瀬乃勇士款味方の

敵

等

吭

敷

胃

輔

甲

死骸を先上は陣雨の如くは飛くる終に交角く悠くと陣営にて引退る。長野信濃守血戦之事大熊武勇之事

長野信濃守血戦之事大熊武勇之事

明正二月二十八日武田の大軍義輪の城と十重北を以て圍む。越後勢の後詰あり。一刻は搦崩しんとす。搦手一同上陣を發而押入る。金鼓天を響かす。大將出陣あり。百千の雷鳴。大軍の大將出陣。信濃守。搦手の隊は上原守守あり。大軍の先鋒は利式少輔。小見山丹後。原手は勝門。六千余騎よく責む。城は信濃守業重。大軍の搦手少輔。武田の後隊

攻

を屹と見送り。今日只今。信玄が法少頭と云ふ。去來赤坂より下知有。和同兵船。永根は勝門耐と先子小見山。自遣兵一百と後。雁行に備。於密策あり。是所こそ又分り。和同兵船。勝門の兵と先。先子交歩。左近後より。先登。浅利。小見山。勝乃中へ。陣中。入。後。搦手。甲軍。總元。並。並。四。路。又。成。ん。と。小。見。山。丹。後。原。手。知。り。て。守。在。り。く。喚。呼。ど。戦。へ。も。永。根。は。勝。門。益。守。の。備。の。兵。切。先。子。搦。手。切。す。猛。威。強。勢。交。角。に。て。甲。軍。の。内。後。修。理。味。方。は。の。甲。軍。悔。み。て。後。走。り。二。度。又。一。内。後。修。理。味。方。

亂

盛

名

日本書紀卷之六

十一

敵

乃 越後 長子 又 流し 逃る 敵の 援合 あり。 鏡と 討入  
 突戦 長孫 信法 守業 重村 分有 得と せん 實と せん  
 赤先 子の 戦ふ ころ。 子 小徑 と して 逃ぬ 信玄 乃  
 鎧 中 け け。 勝り ち ころ 八 百 餘 騎 一 文字 又 加入 ころ。 鎧  
 破 大 將 出 大 軍 あり と。 武田 の 鎧 中 死 族 と あり。 叔 と せん  
 持ふ と あり ころ。 大 水 又 成 ころ 抄 戦 寸。 大 將 信 玄 些 少 も  
 動 せ ぬ。 長 孫 信 法 守 今 日 有 寂 期 と 笑 ころ 引 裏 討  
 取 獲 せ せ ころ。 越 後 又 下 知 あり 長 孫 信 法 守 草 色 の  
 鎧 又 極 必 の 傍 と。 全 狼 ころ 透 ぬ も ころ 抄 せ ころ 引 裏 討  
 楸 形 の 甲 乃 緒 有 志 あり。 馬 馬 の 太 く なく ぬ 死 又 鏡 鞍 並  
 せ 抄 踏 り 越 ぬ ころ 子 怨 死 輝 ころ 春 日 ころ や か 歩

由 節

敵

重代 の 太 刀 抜 ころ して 暮 垂 又 近 来 り。 逸 乃 騎 武 者 切 て 逃  
 向 歩 率 へ 近 例 ころ。 何 率 ころ 信 玄 又 組 ん せ り の ころ。 眼 ころ  
 て 衆 向 り。 左 右 小 後 小 猛 兵 也。 勇 気 日 以 十 倍 兩 降 ころ 並 して  
 切 ま ころ。 孫 ころ 難 難 屋 花 の ころ。 是 又 向 歩 の 武 田 勢 今 日 落  
 さ ぬ ころ ころ。 原 兵 法 入 乃 清 岩 ころ。 信 玄 の ころ 又 勝 ころ  
 寸 も 去 ころ ころ。 向 歩 来 り 長 孫 乃 勇 士 又 突 伏 ころ 抄 せ ころ  
 少 も 長 孫 乃 一 世 の 徳 威 降 益 大 ころ。 栗 原 又 三 良 ころ  
 田 方 ころ 名 取 得 ころ 勇 士 抄 せ ころ 抄 せ ころ。 秋 山 侍 務 撰 件  
 房 も 痛 ころ 負 ころ ころ。 武 田 の 使 七 烈 八 載 ころ 抄 せ ころ  
 熱 敗 軍 ころ ぞ ころ ころ。 高 下 寄 ころ 熱 大 將 武 田 信 玄 抄 せ ころ  
 に 抄 せ 軍 死 團 扇 ころ 抄 せ ころ。 味 方 の 後 ころ 又 招 ころ ころ ころ

山内氏力記卷之六

忍軍記諸卷之六



宰相とて客を賭きする信玄（ちか）驅免（きりぞ）の女房と大熊は揚（あ）り侍  
 三十騎。是時七十八人（あ）孤（あ）あけ。大熊は依（よ）前（まへ）とあり（あ）ね旗（か）本  
 頭（あ）とてあへらまぢる。  
 箕輪落城之事 并上泉仔勢守武勇之事  
 斯而長野信濃守業重（しん）の旗中又引（ひ）込一族良黨とあり（あ）ね大熊  
 間（ま）は並居て主従寂期の酒宴と催（も）す。其後妻子河野判（は）殺（り）  
 自害して伏（ふ）せられ小幡三河同圖書（しん）と助（すけ）成始（は）と（し）  
 思（おも）ひく（あ）らむ（あ）らむとて伏（ふ）せり。實は長門守（しん）の救旗下  
 のちちも名は聞（き）く（あ）らぬ名家とて父業政（しん）の孫三平（しん）威と  
 下（くだ）る。二代志と愛せられ今（いま）の孫のあはれ居り。天晴（あ）れ（あ）は  
 止（と）り。天晴（あ）れ（あ）は（あ）まの拳（こぶし）新（あら）て。感（かん）せぬ者（もの）とせり（あ）り

首（くび）取（と）り人（ひと）とて（あ）は（あ）れとて城（しろ）兵（へい）を人（ひと）に（あ）り（あ）り。大熊（おほ）が指（さ）物（ぶつ）とて  
 取（と）り。うん（うん）は逃（に）げて（あ）れ。群（ぐん）退（たい）く長孫（ちやうそん）が勢（せい）は立（た）つとて（あ）り引（ひ）て  
 瓜（うり）大熊（おほ）鹿（か）同（どう）は腹（はら）へ（あ）ら（あ）す。先押（ま）へ（あ）る（あ）さ本（もと）が頸（くび）と（あ）り切（き）り（あ）れ  
 狸（ねこ）乃（な）引（ひ）合（あ）せ（あ）る（あ）し（あ）り。立（た）つとて（あ）り見（み）渡（わ）る（あ）ら（あ）れ。赤（あ）ら（あ）し（あ）り  
 よ（よ）と（あ）り（あ）ら（あ）れ（あ）り。大熊（おほ）はよ（よ）い（あ）り。け賊（ぞく）お異（い）と（あ）り生（な）じ（あ）り。虚空（こくう）と（あ）り  
 羽（は）有（あ）とも。予（よ）一命（い）のあ（あ）ら（あ）し（あ）り限（か）り。取（と）り（あ）ら（あ）れ（あ）りや（あ）ら（あ）れ（あ）り。度（た）と吐（は）  
 て（あ）れ（あ）り。屍（しかばね）隙（ひま）とて追（お）ひ（あ）群（ぐん）る故（ゆ）はよ（よ）い（あ）り。彼（か）武者（ぶし）とて（あ）り  
 伏（ふ）せり（あ）ら（あ）むとて（あ）り結（むす）ぶ。再（また）故（ゆ）中（ちゆう）をうけ（あ）り（あ）ら（あ）れ（あ）り。人（ひと）あり（あ）ら（あ）れ  
 赤（あ）ら（あ）し（あ）り。如（ごと）く困（こ）とて引（ひ）込（こ）す。天晴（あ）れ（あ）は（あ）まの（あ）ら（あ）し（あ）り。信（しん）玄（げん）導（どう）  
 是（こゝ）に臨（み）て。大（おほ）と感（かん）ぜ（あ）る（あ）ら（あ）れ。人（ひと）高（たか）千（せん）とい（い）ひ（あ）ら（あ）れ  
 少（す）と。軍（ぐん）終（しゆう）て後（ご）威（い）怖（ふ）と揚（あ）り。殊（こと）は故（ゆ）小幡（こ）入（い）た日（ひ）意（い）が妹（い）は小

列傳の記卷之六

朝



茲に搦手と守る上泉守防守に武田の猛勢と引つけ千夏  
 義仁は防戦とすれども寄手は名取入る場伏富井村  
 の別將息もはくす攻立るが處上泉必死とありけり  
 下知とすべく大士の軍破られて大將信法守と  
 堂引入ると聞えられ今唯あま防戦せん去未だ  
 切死しと名取後代とすれども矢傳言山向倉小神名取  
 ありとす猛兵勇士進兵總而二百餘騎と云九は成て  
 群を寄手より西角八面と討ひけ瓶と引て驅合せ  
 款とすの事取中下も上泉守防守に倫亦長光がき  
 とも二尺八寸の太刀取振雲霞の如き武田勢又破り  
 是向堅割撲羅は常と震て戦ふ形勢正しく鬼神もかくやんと

款する士率ハなりある廣瀬曲園三村の勇士解款とせ  
 ありとすれお討とす人雀躍とて槍引とすのて追兵已  
 又戦んと欲る處は百足の指物ある母衣武者一騎大士の  
 方より中と飛して驅射する武田家の母衣の使金丸助六  
 即ちりる場伏富が前と至て信玄の命を傳へ上泉必  
 始として武勇の戦兵の必死と止め味方又屬せよと乃  
 事なりたりる場景政伏富昌景畏て味方の勇士を割り市  
 川梅平を以款陣と使せし梅平經て一隊より瓜分し  
 敵陣へ物置んとて徐くと立信玄の命を傳へ陣糸の事取  
 後引免され上泉とすれ死を定る猛兵も遂に領堂  
 して陣糸と出され推進者もあし一討に敵は退り

川梅平を以款陣と使せし梅平經て一隊より瓜分し

後引免され

信玄隊系の兵士の武勇が稱して。内後修理が隠下し、其の  
 らふ。中より上泉信房守の新流と云ふ仕出する程の  
 兵法の達人ありければ。信玄殊に稱せしむる所よ。上泉も  
 兵法終りの依を強ひ出軍終て後。三年は、  
 武者修治をぞ立出さる。而も兼輪落城及び、  
 修理正昌豊と而城代小に置れて。西上野七那の代は、  
 られり。安中左近進の始終の志神妙ありと有て。中領安  
 堵の上又越前が居城に。お井田の城と下され。越前あり  
 た近が忠節は依而死罪之恩免有る。昔中出され、  
 越前を聞て。支降人と成。一命おなせり。車承り、  
 孤死お死み、兵士の修云ん事と怒ひて。隊人、

あり。幸た近が腰抜の志は因て。中鐵心を機さん。速に死  
 つる。近として。儉使ぬ。しうけ。腹さき切て。死る。天晴の  
 ぶ。ふ。い。形。り。あり。

武田家古今集紛失之事

西上野一圓武田家の子よ入られ。信玄領の城を小幡信定が  
 賜り。其外仕並ね。甲府に凱陣有て。専治國の針策と、  
 つまげ。ま。り。以。来。の。軍。陣。の。ゆ。は。も。ろ。く。一。藩。軍。勇。は。依。て。稍。太。平。  
 乃。思。ひ。成。す。り。信。玄。兼。而。和。哥。は。志。深。く。お。ま。の。云。云。云。  
 の。古。今。集。有。て。世。に。今。川。家。に。わ。け。傳。天下に名を、  
 ち。り。我。え。存。生。の。信。玄。怒。望。と。借。用。有。る。間。は。我。え。尾。



此頃信玄公は秘義ある。定家郷自筆乃古今集紛失は。此  
 又休が取らるる。風聞に實は然る乎。速は息し。命の助け  
 こそせんぞと云われ。熊若大は喘を某の只道成早く  
 母びとあをを所得る。盗りたる事未心を得ず。上  
 年月事も買の秘義のゆゑ。何のあまう盗まやさん  
 買ふ誰僕し。いぞ某お果し。いつんど。面色変じく。兵部  
 お捕。微妙て曰休怒る事あられ。平休が情心。能なる西なれ  
 ども。先心を引く。か。此事いふ。尋索づ。平  
 今うの休は。強さる。お。お。熊若教で曰。未一人  
 乃老母のい。年不。訪は事。得ず。し。い。心と安  
 ん。乃。い。何。事。未。い。と。経。旧。里。り

吾一のらんは。盗賊あり。か。ま。ん。と。い。ふ。ま。ま。を。安  
 き。事。を。仕。お。け。る。不。終。の。旧。里。へ。再。き。り。ま。ま。を。ま。ま。を。ま。ま。を。  
 甲。西。那。は。遊。く。ま。人。約。者。有。早。き。事。某。の。お。が。は。  
 熊。若。精。心。は。い。は。い。辛。は。て。追。討。ま。り。穿。て。絶。つ。て。は。  
 を。彼。者。到。力。を。振。り。ど。う。ん。と。あ。せ。れる。力。を。ま。ま。を。ま。ま。を。ま。ま。を。  
 甲。府。は。及。り。主。人。兵。部。は。お。と。云。と。け。ま。い。兵。部。が。捕。ま。り。五  
 出。是。と。又。曲。者。は。十。六。ある。坊。主。と。有。お。れ。は。任。高。不。審。し。と  
 曰。う。あ。れ。は。お。家。小。坊。主。取。生。捕。し。ど。熊。若。を。見。れ。い。今  
 甲。佐。右。國。と。け。者。を。ま。り。い。者。は。い。は。い。お。れ。も。自。然。然。心。の

見茂力記卷之六

死草言卷之六

如く故郷の作賀へと見えしは  
 越若小幡尾張守信定、再嶺の城主と成て四五年の蟄  
 懐と幾の如信玄より過急召るの文面こそ羽撤上召至末  
 こそ信定承而即時嶺の城にお立良堂より引きて甲府に  
 向と。信玄上檀若者座有馬場内及候富坂は、在府の儘  
 館の形勢信定違又平伏と。高下信玄原集人心昌勝を  
 されし。信定が毒女の故兼論の城主長孫信徳守業故が女  
 されば、高家と對而怨敵の種狂り、早く離列せしに、故

川上茂力日記卷之六

七

者といひんとやせは候富いしと候たりと。信定は  
 兼論の長孫信徳守が茶及くと主君の讐かれれば、信玄公が  
 討とんと。森西は母びひはれども、名取の勇氣一室は充て  
 交よとせと半あつらん。ゆへに今川家より執りあふと聞  
 彼古今集と竊とり。今川武田と確執及及せしめ、今川を  
 侍と討えんと。床の間より取申し。一昨日京越え持参  
 今川の武田八幡の社内は、埋めおたつる。今川我運命  
 作らる如れを、疾く罪は引ひきとせ。いそぎよく討せよ  
 ちりぞけるがら。然若る、野の痕痕及及せしめ、今川我運命

川上茂力日記卷之六

七



小幡信定  
甲斐館小  
至る  
団

死罪正言者

仕儀

當

常家譜代の臣のりあり。縁起の事あり。原隼人正に向ひ。内膳の事あり。存る子細のりく。儀又おいて。半。變。而。仕。り。其。中。數。而。答。有。白。速。ち。れ。た。素。猛。威。節。烈。さ。る。信。云。あ。れ。た。半。聞。より。西。色。變。ト。い。う。尾。張。守。信。定。平。云。葉。を。折。り。而。已。あ。る。然。款。の。知。と。引。條。奇。怪。さ。り。存。る。子。細。白。及。し。志。死。又。因。て。度。の。尺。寸。も。立。違。と。信。出。さ。る。を。白。さ。れ。ち。り。云。葉。も。終。る。ぶ。る。よ。廣。瀬。々。右。傍。門。曲。淵。庄。左。傍。門。三。科。肥。前。亦。末。席。の。樹。と。進。も。信。定。が。左。右。瓜。割。め。べ。列。座。の。勇。士。も。信。定。が。君。命。遠。宵。乃。五。晝。又。須。波。と。い。は。れ。信。定。と。德。威。と。合。て。勝。と。申。む。如。之。廣。瀬。曲。淵。三。科。の。英。勇。若。後。又。迫。て。結。ば。せ。り。此。信。定。撰。大。

繪本張飛が勇と兼子房附龍が智有とも。此をなされしと云ふ。信定が。畢竟信定が存亡信定何ん。一瞬の過さるるも。偏。後編首卷は譲は

附而云甲越将士と肖像若干画而表。端小出。之。も。甲。軍。の。武。勇。影。記。而。未。越。兵。の。勤。功。を。悉。あ。け。ど。是。初。編。の。措。數。限。有。が。故。形。り。因。而。後。編。首。卷。之。中。專。小。越。の。事。跡。を。紀。ん。矣。元。迄。は。互。進。一。看。管。訝。る。も。と。勿。

二

